

# UPDATE

## ■ 非開削技術見学会

### φ 2400mm 合成鋼管推進現場

(大土被り  $d=22.9\text{m}$ , 急曲線  $R=50\text{m}$ )

1月7日(金), 東京都千代田区内幸町地(日比谷公園脇)の立坑から発進するφ 2400mmの大中口径で, 土被りが22.9mと深く, 推進途中で $R=50\text{m}$ の急曲線を有する合成鋼管推進の現場見学会を開催した。工事は埋設物の複雑に輻輳する大都市東京の中心部を走る幹線道路下に電力用の地下設備を構築するものである。

発進立坑ではとう道(トンネル)を含む種々の既設埋設物の防護状況や, 土留の不連続箇所への対応など推進技術以外にも興味深い内容を有するものであった。

なお, 当日は快晴でしたが, 今年一番の寒さにも拘わらず定員を超える25名の参加者があった。

## ■ 国際交流(中国・上海地域の非開削事情に関する意見交換)

2月8日(火), 来日中の中国非開削技術協会のメンバーであり, 上海市エリアで, 非開削技術関係の会社を経営する孫躍平氏を招き, ①上海地域の社会インフラ設備現況, ②上海地域で採用されている非開削技術の現状と課題及び③日本企業が中国で展開を図る上での望ましい形態(案)等について講演頂いた。講演後, 日本(JSTT)の出席者との間で, 公共施設整備への国家的取り組み, 非開削技術の今後のニーズ, 日本企業の収益還元などについて活発な意見交換が行われた。なお, 参加者は報道関係者を含め, 約30名であった。

## ■ JSTT各委員会の活動

### (1) 機関誌(No-Dig Today)編集委員会, 企画編集小委員会

#### 【編集委員会】

第76回委員会を1月14日(金)に開催した。ここでは, 新たに第4クールとしてスタートした機関誌第74号の技術特集「極小口径管路の建設技術」への寄稿記事について審議した。また, 特集記事の募集対象は, 社会基盤設備に関係する広い企業範囲(上下水道, ガス, 電力, 通信, 農水等及びそれ以外)に拡大する方針を確認した。

### 【企画編集小委員会】

第80回を12月7日(火)に, 第81回を1月14日(金)に, 第82回を3月3日(木)に開催した。ここでは, 特集の編集方針と寄稿記事との整合性, 次号の特集「小口径管路の非開削建設技術」記事の募集, 表紙のデザイン, これまでの連載「深川探索」に代わる憩のコーナーとして「会員談話室」欄を設けること等を審議した。

### (2) 工法ナビゲーション運営委員会

第35回を1月19日(水)に開催した。ここでは, 工法ナビゲーションの利用状況に基づき, ナビゲーションソフトの改良方針を審議した。この結果, 「耐震対策工法」「地下探査工法」を新たに検索対象に付加する方向を確認した。また, 来年度に向けた使い勝手に関する改良項目を抽出した。

### (3) HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会

第44回を12月9日(木)に, 第45回を2月16日(水)に開催した。ここでは, 2009年度に発行した「設計積算要領」「機械器具等損料参考資料」「施工管理の手引き(案)」の内容を審議し, これらを2011年4月1日付けで発行することとした。また, HDD工法の普及を促進させるため, 2011年4月下旬に関東地方において, 要領類を用いた工法説明会を企画することとした。

### (4) ソーシャルコスト検討委員会

第4回を1月13日(木)に開催した。ここでは, 開削工法の課題及び非開削工法採用理由に関するアンケート調査結果に基づき, 委員会を対象とする検討項目(交通車線規制・交通迂回・補償など)を審議した。

また, 非開削関係者から要望に対応するため, 検討マニュアル(原案)の作成時期を早めることとした。

### (5) 地下探査技術委員会

第4回を1月21日(金)に開催した。ここでは, 地下探査技術マニュアルの策定に向けて, 現在どのような探査用途にどのような探査技術が使われているかの調査結果(マトリックス)を基に, 技術マニュアルが対象とすべき技術範囲について論議した。